

(様式6-A) A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

面高 拓矢 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Relationship Between Lower Limb Tightness and Practice Time Among Adolescent Baseball Players With Symptomatic Osgood-Schlatter Disease.

(少年野球における症候性オスグッド・シュラッター病と下肢タイトネス及び練習時間の関連)

The Orthopaedic Journal of Sports Medicine 7(5);2325967119847978.

Takuya Omodaka, Takashi Ohsawa, Tsuyoshi Tajika, Hiroyuki Shiozawa, Syogo Hashimoto, Hiroaki Ohmae, Hitoshi Shitara, Tsuyoshi Ichinose, Tsuyoshi Sasaki, Noritaka Hamano, Kenji Takagishi, Hirotaka Chikuda

論文の要旨及び判定理由

オスグッド・シュラッター病 (Osgood-Schlatter Disease : OSD) は大腿四頭筋の牽引力により脛骨粗面の骨端核にストレスが加わることやオーバーユースが発症要因であるとされている。この他にもハムストリングおよび下腿三頭筋のタイトネスの関連も報告されているが、症候性OSDと下肢タイトネス及び練習時間との関連を詳細に検討した報告は少ない。本研究は少年野球検診における症候性OSDと下肢タイトネス及び練習時間との関連を調査したものである。超音波でOSDを診断し、正常群、無症候性OSD、症候性OSDの3群にわけて、年齢、身長、体重、BMI、1週間のチームの練習時間の合計および下肢タイトネスを比較した。結果として症候性OSDでは優位に練習時間が長く、踵臀間距離が多くなり、足関節及び股関節の可動域が制限されていた。症候性OSDの発症には、大腿四頭筋のみならず股関節や足関節のタイトネス及び練習時間の長さに関連している可能性が示唆された。本研究は症候性OSDと練習時間及び下肢タイトネスの関連について調査した貴重な研究であると認められ、博士 (医学) の学位に値するものと判定した。

(令和元年12月11日)

審査委員

主査 群馬大学教授 (医学系研究科)
臨床検査医学分野担任

村上 正巳



副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
リハビリテーション医学分野担任

和田 直樹



副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
機能形態学分野担任

岩崎 広英



（様式6, 2頁目）

最終試験の結果の要旨

オスグッド・シュラッター病の画像診断についておよびオスグッド・シュラッター病の疼痛出現のメカニズムについて試問し満足すべき解答を得た。

（令和元年12月11日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
整形外科学分野担任

筑田 博隆



群馬大学教授（医学系研究科）
臨床検査医学分野担任

村上 正巳



試験科目

主専攻分野	整形外科学	A
副専攻分野	臨床検査医学	A